

2026年2月9日

各位

株式会社PR TIMES  
執行役員 兼 第一営業部長  
小暮 桃子

## <最終報>Microsoft365関連ドメインへのメール配信障害発生のお詫びとご報告

平素よりPR TIMESをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

2026年1月19日(月)に第一報としてお知らせいたしました一部メールアドレスにプレスリリースが正常に送付されない障害につきまして、復旧に向けた対応を完了し、最終的な影響範囲を特定いたしました。原因の詳細および再発防止策とあわせてご報告いたします。

2025年11月30日(日)以降、PR TIMESから送信されたプレスリリース配信メールが、Microsoft365関連ドメイン(hotmail.com、msn.com、live.jp、outlook.com、など、Microsoft365で設定された独自ドメイン)の一部メールアドレスに対して正常に送付されていない障害が発生しておりました。2026年1月29日(木)19時頃にサーバーの切り替えを行うことで復旧し、現在は正常にメールが送信されております。発生から復旧までに、計540件のメールアドレス(メディアユーザー98件、個人ユーザー70件、PR TIMESリスト29件、インポートリスト343件)へのメール送信の一部が不達となったことが判明しています。

会員企業様、会員メディア様、ユーザーの皆様ならびに関係各所の方々へ、大変なご迷惑をお掛けすることとなり、誠に申し訳ございません。対象となったプレスリリースの配信元企業様へは順次個別に連絡を差し上げ、再送のご案内を進めております。

障害の検知に時間を要してしまい、対応の遅れを招いてしまったことを深くお詫び申し上げます。第一報時点の把握状況から新たに判明した最終的な影響範囲を含め、原因と再発防止策について下記の通りご報告申し上げます。

### 記

#### 1 概要

当社が運営するプレスリリース配信サービス「PR TIMES」において、2025年11月30日(日)～2026年1月29日(木)19時53分までの間で、Microsoft365関連ドメインのメールアドレスを宛先とするプレスリリース配信メールの一部にて送信が失敗していることが判明しました。本障害は、メール送信サーバーに割り当てられた一部のIPアドレスが、MicrosoftよりDNSブラックリストに追加され、特定のIPアドレスからのメール送信を拒絶する状態となったことにより発生いたしました。メール送信時に割り当てられるIPアドレスはランダムに振り分けられているため、Microsoft365関連ドメインかつ当該IPアドレスを経由するケースに限り、本障害が発生いたしました。

2025年11月30日(日)～2026年1月29日(木)19時53分までの間で、対象となったメールアドレス、メール、プレスリリースの総数はそれぞれ以下の通りです。対象となるプレスリリース配信メールは、当該期間中にPR TIMESから配信された全プレスリリース配信メールの約0.26%となります。

①メディアユーザー宛

送信失敗したメールアドレス:98件、送信失敗したメール:218427件、送信失敗したプレスリリース:30279件

②個人ユーザー宛

送信失敗したメールアドレス:70件、送信失敗したメール:56470件、送信失敗したプレスリリース:19540件

③PR TIMESリスト宛

送信失敗したメールアドレス:29件、送信失敗したメール:8196件、送信失敗したプレスリリース:6959件

④インポートリスト宛

送信失敗したメールアドレス:343件、送信失敗したメール:743件、送信失敗したプレスリリース:371件

## 2 対応

ベンダーからMicrosoftへDNSブラックリスト解除を求めることと並行し、別サーバー経由でのメール送信体制を構築いたしました。ブラックリスト登録は解除が進んでおり、再度登録された際にも早期対応ができるよう監視を続けております。対応の流れについては、経緯にて後述いたします。

該当するプレスリリースの配信元企業様へは個別にご連絡を差し上げております。あわせて、ご意向を伺ったうえで、改めてメールが正常に送付できていなかったメディアへのプレスリリースのメール配信を進めております。配信の際は、当社のシステム障害により当初の配信日より遅延してメール配信が行われている旨を説明する文章をプレスリリース冒頭に追記いたします。加えて、メールが不達であったPR TIMESリスト登録メディア・メディアユーザー・個人ユーザーへ、事象についてご報告を完了しております。

## 3 経緯

≫2025年11月30日(日)

PR TIMESメールサーバーの一部に割当てられたIPアドレスがDNSブラックリストに追加されたことで、Microsoft365関連ドメイン宛のメールの一部で送信障害が発生(この時点では認識できず)

≫2026年1月23日(金)

11:50 お客様からの問い合わせをきっかけに、一部メールにおいて送信障害が発生していることを確認

12:10 全体のメール送信状況には異常ないことを確認したうえで、個別調査を開始

17:00 Microsoft365関連ドメイン宛のメール障害であることを確認、影響範囲と原因調査を開始するとともに、Microsoftへブラックリスト解除を申請

≫2026年1月28日(水)

11:00 ベンダーと協議の上、別サーバーを経由したメール送信体制の構築を開始

13:00 1月28日時点までの影響範囲を特定  
14:40 第一報を掲出、対象企業への連絡を進行

≫2026年1月29日(木)

12:00 別サーバー経由でのメール送信に向けた動作テストを開始  
19:53 メール送信サーバーの切り替え作業を完了、再送に向けた顧客案内を開始

≫2026年1月30日(金)

メール送信状況をモニタリングしながら、メールの再送対応を進行  
14:00 本番環境の全IPアドレスがMicrosoftのDNSブラックリストから解除されたことを確認

≫2026年2月2日(月)

ベンダーと協議の上、具体的な再発防止策の策定に向けて追加の調査を進行

≫2026年2月6日(金)

具体的な再発防止策を策定

#### 4 原因

メール送信サーバーに割り振られた全48のIPアドレスの内、39のIPアドレスがMicrosoftよりDNSブラックリストに追加されたことにより発生しています。DNSブラックリスト登録された原因としては、メール配信元メールアドレスの認証設定の不具合が影響している可能性が高いと推測しています。また、外部ブラックリストへの登録を即時に把握・検知する監視体制を構築できておらず、発生の把握までに時間を要することとなりました。

#### 5 再発防止策

ベンダーとも協力しながら、メール送信エラーをいち早く検知できる監視体制を強化するとともに、検知後の再送対応を速やかに実施する体制を構築します。また、サービス仕様に関しても、サーバーブロックを避けるための見直しを行います。

- 監視体制の強化と再送体制の構築

- 送信ログ監視

メールの送信ログを日次で監視する体制を構築します。メール到達率の異常値を察知することに加え、配信先のメールアドレスでDNSブラックリストエラーが発生した場合に検知し、早期対応を可能にします。

- ベンダーによる監視体制の強化

メール送信サーバーが利用する複数のIPアドレスのうち、いずれかのIPアドレスがDNSブラックリストに登録された際に通知する仕組みを構築します。これにより、対象メールアドレスへの送信エラーを早期検知し、ブロックされる対象の拡大を防ぎます。具体的には、本番環境において1時間に1回、DNSブラックリストへの登録有無を監視します。

- 再送体制の構築

現在プレスリリースメールを送信するためのIPアドレスは48個を用意し、ひとつのIPアドレスから送付できない事態になった場合も、すべてのメールが滞ることのないようリスクを分散しています。既存のIPアドレス48個に加え、予備となるIPアドレスを追加で

用意いたしました。DSNブラックリスト登録などを受けメール送信がエラーとなった際に、一部のメールアドレスに向けて一時的に予備環境に切り替え、メールを再送できる体制を構築いたします。なお、予備環境への切り替えはあくまで一時的な措置であり、本環境でDSNブラックリスト登録が解除され次第、元のIPアドレスからの送信に戻します。

- サービス仕様の見直し

- 認証設定(DKIM・SPF)の厳格化

プレスリリースを自社リストに配信する際に送信元を変更してメールをお送りできる機能があります。その際に認証設定(DKIM・SPF)を行っていただくことで、配信元からのメールで間違いないということを証明することができ、迷惑メールなどの判定がされづらくなります。現在PR TIMESでは、認証設定を行わなくても配信元を変更してプレスリリースメールを送ることができる状況であり、ブラックリスト登録やスパム判定のリスクが高い状態です。今後は認証設定が完了していない場合は、配信元を変更してのメール送信ができないよう仕様を変更いたします。

- リスクの高いドメインやリンク先の監視

プレスリリース本文内に記載されるURLもブラックリスト登録やスパムメールの判定に利用されています。リスクの高いドメインやリンク先がプレスリリース内に記載されている場合は、プレスリリース入稿エディター上で注意文を表示するなど、事前に通知いたします。短縮URLや多段リダイレクトの場合にも、最終的にたどり着くURLまでを確認し、リスク評価を行う内容で機能を実装予定です。

- 再送機能の実装

現在は一度配信されたプレスリリースを自動で再送する機能が存在せず、再送時に手動で操作を実施しています。迅速に間違いなく再送を実行するために、システム通じて自動でメールが再送されるよう改修いたします。これにより、今後ブラックリスト登録が発生した際にも、速やかに再送を行える環境をつくれます。

この度は、皆様へ多大なるご迷惑をおかけし誠に申し訳ございません。上記の再発防止策を徹底し、信用回復に努めてまいります。

今後ともPR TIMESをご愛顧いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

PR TIMES:<https://prtimes.jp/>

以上